

## 第31回基本政策部会 議事要旨

### 1 日 時

令和5年2月24日（金）15:30～17:30

### 2 場 所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

### 3 出席者

#### (1) 委 員

白坂部会長、常田部会長代理、青木委員、石田委員、臼田委員、漆間委員、片岡委員、栗原委員、工藤委員、篠原委員、中須賀委員、松井委員、南委員、山崎委員

#### (2) オブザーバ

宇宙航空研究開発機構（JAXA） 石井理事

#### (3) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 河西事務局長、坂口審議官、滝澤参事官、齊藤参事官、渡邊参事官

### 4 議事要旨（○：意見等）

事務局から資料1、資料2、参考資料1、参考資料2に基づいて説明。委員から以下の意見があった。

<次期宇宙基本計画の策定に向けた論点について>

- 宇宙科学のミッションは国として意義があるが、ミッションが高度化しており、メーカーにとっても、リスクが高いことやリピートが見込めないという課題がある。
- 同様に、衛星開発においても、難易度の高い衛星では、追加で作業が発生しコストがかかる事例がある。フロントローディングの考え方が重要。
- 宇宙探査については、世界に対して我が国が存在感を持って参加していくことが重要。日本がいないとプロジェクトが成り立たない等、そのような状況になるよう取り組んで欲しい。  
また、存在感を示していくために、国産技術をどのように考えるか、どのように磨いていくか、検討が必要。
- 現在、サンプルリターンが我が国の強みであるが、将来的な我が国の強みを考えていかないとじり貧になるのではないか。どのような技術があるか、しっかりと議論をすることに加え、世界がやっていないユニークな発想を考える必要がある。
- ISSについては、民間による利用促進は重要。NASAも利用促進を進めているので、我が国としても世界をリードしていく気概を持つべき。
- アルテミス計画への参画と将来的な月面産業は繋がっていると考えられる。現在、民間が月面産業に興味を示している、民間の熱意を活かすべき。
- 宇宙輸送については、米国での打上げ回数が増加しているところ、将来の予想では更なる増加が見込まれている。我が国としてもスピード感を持って取り組むことが必要。